

ごみ処理方式の検討方法

第2回四国中央市ごみ処理施設整備検討委員会
令和5年7月24日

目次

- (1) 前提条件**
- (2) 本市のごみ処理に係る行政方針**
- (3) ごみ処理方式の検討方法**
- (4) 定性的評価項目の設定**

(1) 前提条件

【検討を行うごみ処理方式】本市の選択肢

① 西条ブロックでのごみ処理広域化に参画する

② 単独でごみ処理施設を整備する

(現在の分別区分で処理可能な燃料化施設を整備する)

	処理方式	分別区分変更の必要性	備考
可燃ごみ処理技術	ストーカ式焼却方式※1	不要	四国中央市クリーンセンター
	流動床式焼却方式	不要	-
	シャフト炉式ガス化溶融方式※2	不要	-
	流動床式ガス化溶融方式	不要	-
	キルン式ガス化溶融方式※3	不要	-
燃料化技術	固形燃料化	不要	-
	堆肥化	必要	残渣処理のため焼却施設と併用
	飼料化	必要	残渣処理のため焼却施設と併用
	バイオガス化	湿式：必要、乾式：不要	残渣処理のため焼却施設と併用
	◎ 炭化	不要	-
◎ トンネルコンポスト方式	不要	-	
剪定枝の利用技術	チップ化	必要	残渣処理のため焼却施設と併用
	堆肥化	必要	残渣処理のため焼却施設と併用

 現在の分別区分で処理可能な燃料化技術

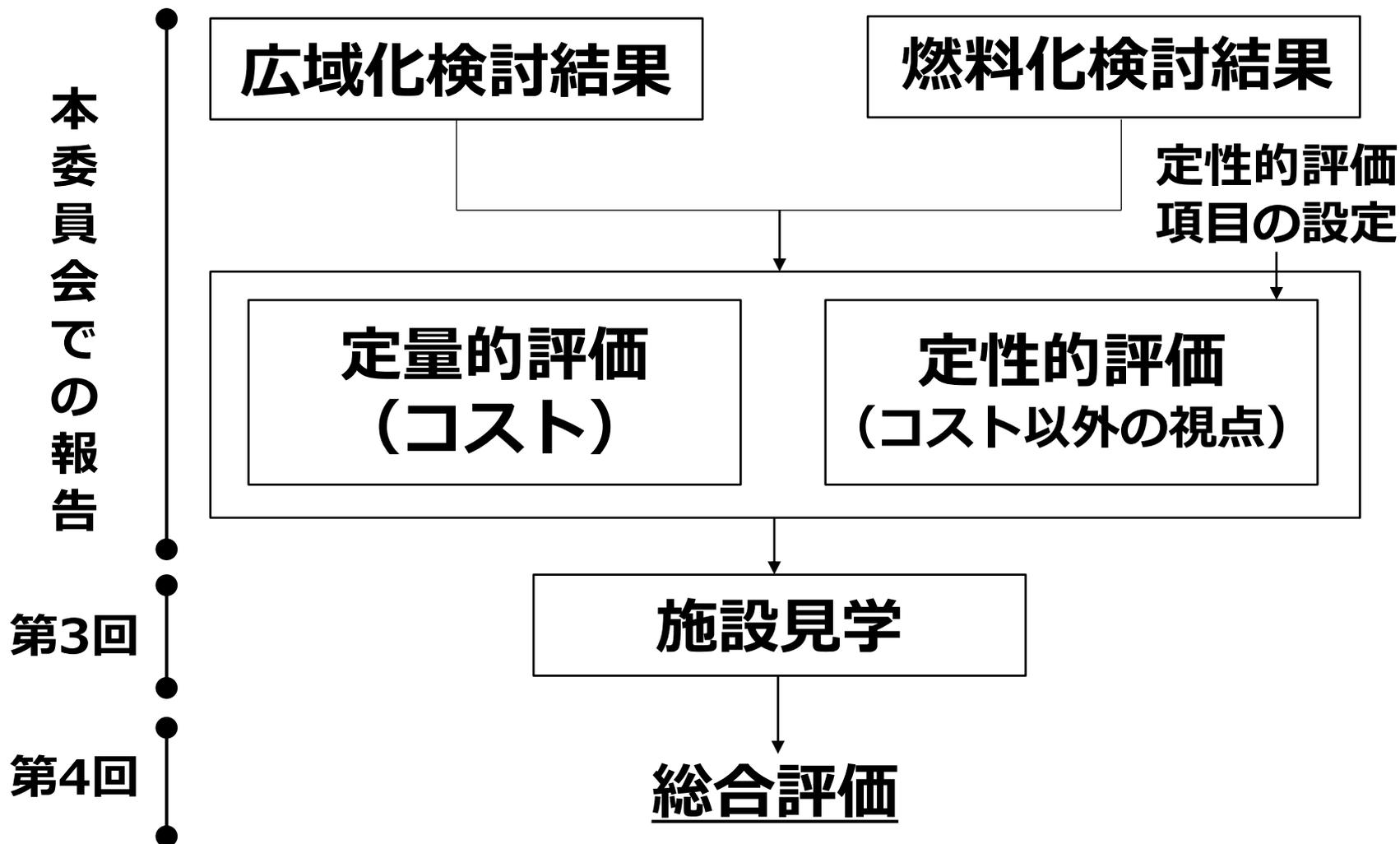
(2) 本市のごみ処理に係る行政方針

■ 環境に配慮したごみ処理

- ・ 日本一の紙のまちである本市において、基幹産業の紙産業が大量エネルギーを要し、大量の温室効果ガスを排出
- ・ 2050年カーボンニュートラルの達成目標
- ・ 四国中央市カーボンニュートラル協議会の設立
- ・ 四国中央市地球温暖化対策
実行計画（区域施策編）策定
- ・ 眞鍋淑郎博士がノーベル物理学賞を受賞

(3) ごみ処理方式の検討方法

- ごみ処理方式は定量的・定性的な評価を行い最終総合評価で決定する。



(4) 定性的評価項目の設定

■ 下記10項目により定性的評価を実施

① 先行事例の状況

先行事例が多く、技術として確立されている。
また、競争の原理が担保されている処理方式を高く評価

② 脱炭素への貢献

温室効果ガス排出量が極力少ない処理方式を高く評価

③ 行政サービスの利便性

ごみの直接搬入の容易さ等、市民にとって利便性の高い行政サービスを有する処理方式を高く評価

(4) 定性的評価項目の設定

④ 資源化率の向上

現状、本市が抱える課題として資源化率の低下があるため、資源化率の向上が図られる処理方式を高く評価

⑤ 最終処分量の低減

現状、本市が抱える課題として最終処分量の増加があるため、最終処分量の低減が図られる処理方式を高く評価

⑥ 災害時の対応

災害時におけるごみ処理の継続性が担保できる処理方式を高く評価

(4) 定性的評価項目の設定

⑦ 地元貢献（エネルギー利活用の観点）

採用する処理方式によって、地元企業への貢献が果たせる処理方式を高く評価

⑧ 整備面積

整備面積を多く要さない処理方式を高く評価

⑨ 収集運搬の利便性

収集運搬の容易な処理方式を高く評価

⑩ 本市行政方針との整合性

本市行政方針と合致した処理方式を高く評価

（四国中央市クリーンセンターの稼働計画との整合性等）